

令和2年度 第一回長野市青少年健全育成審議会 議事録(要旨)

1 日 時 令和2年10月15日(木)午後1時30分から3時まで

2 場 所 長野市少年科学センター 実験工作室

3 出席者 委員8名 事務局7名 (現在の委員人数13名)

4 次 第

(1)開 会

(2)教育次長あいさつ

(3)自己紹介

(4)会長あいさつ

(5)議 事(議事進行 会長)

①城山公園再整備基本構想の一部見直しについて

(6)その他

(7)閉 会

5 会議録

■教育次長あいさつ

令和2年度 第一回長野市青少年健全育成審議会の開催にあたり、長野市教育委員会を代表して、ごあいさつを申し上げます。

委員の皆様におかれては、日頃より、本市の青少年健全育成事業に御理解と御協力をいただき、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

7月8日に開催を予定していた本審議会については、梅雨前線による大雨により急遽中止とし、また、本日の開催にあたり大変急なお願いにもかかわらず、ご出席を賜り感謝申し上げます。

昨年、令和元年東日本台風による過去最大級の災害が本市で発生し、また、今年に入ってから、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大に伴い、皆様方におかれては、それぞれのお立場で大変御苦労されたことと思われる。

教育委員会としても、子どもたちをはじめ、皆が幸せを実感できるよう引き続き復興業務及び新型コロナウイルス感染拡大の防止に、全力で取り組んでまいりたい。

さて、長野市では、都市整備部公園緑地課が主体となり、本年4月に城山公園再整備基本構想を策定した。この計画では、城山公園を3つのゾーンに分け、施設の耐用年数や整備の優先度に着目して段階的に整備していくこととしている。

3つのゾーンの一つである「ふれあいの森ゾーン」に位置する少年科学センターについては、来年度の令和3年度から施設整備に着手することを検討している。「ふれあいの森ゾーン」には少年科学センターのほか、城山市民プール、城山動物園があり、少年科学センターについては、城山公園再整備基本構想において施設の方向性を本審議会でも検討するとされている。

本日は、この後、担当から少年科学センターの今後について御説明するので、委員の皆様から忌憚のない御意見を賜るようお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

■会長あいさつ

本年度の会長を仰せつかった信州大学の越智です。教育学を教えているが、松本付属幼・小・中の校園長もしている。今年はコロナの影響で先日ようやく幼稚園の運動会があって、小さな園だが各学年に分かれて行った。幼稚園からだんだん復活していった、大学の方はまだ学生にもほとんど会っていない状況にある。コロナについては、社会にいろいろな影響を与えていて青少年にも目に見えないところでいろいろなことが起こっていることが懸念されるが、本日は少年科学センターが未来に向けて変革できるよう、コロナ後の子どもたちの明るい未来のために少しでも貢献できればと思っている。

■議 事

●城山公園再整備基本構想について

(事務局:説明)

(資料:城山公園再整備基本構想 概要版及び城山公園再整備基本構想)

- ・城山公園再整備基本構想における少年科学センターの位置づけ
- ・当初計画の説明

●館内見学

●城山公園ふれあいの森再整備プロジェクト(案)について

(事務局:説明)

(資料:城山公園ふれあいの森再整備プロジェクト(案))

- ・少年科学センターの概要及び現状と課題
- ・城山動物園及び城山市民プールの現状と課題
- ・ふれあいの森ゾーンの再整備計画
- ・少年科学センターの今後について

(会長)

城山公園再整備基本構想の説明後、少年科学センターの見学、城山公園ふれあいの森再整備プロジェクト(案)について、事務局から説明があった。委員の皆様から少年科学センターに対するご意見を伺いたい。

(委員)

来館者数は学校単位、クラス単位で来て授業に使っているのか。また、その数も含まれているのか。

(事務局)

学校についてはクラス単位で来ていただいている。数字の中に入っている。

(委員)

長野市の子どもはほぼ100%ここに授業の一環として来ているということか。

(事務局)

そういう訳ではない。どこの小学校が来ていて、どこが来ていないといったデータは今ここにはない。

各学校によって見学という形でやっている。利用している学校もあればそうでないところもある。また、市外の学校の利用もある。今日も千曲市から来ている。

(委員)

この施設の収支はどうか。

(事務局)

株式会社オーエンスが指定管理を行っている。人件費も含め管理をお願いしている。今のところ黒字という形で運営している。ただ、今年度はコロナの影響で入場者が減ってかなり厳しい状況にある。昨年度は黒字であった。

(委員)

指定管理でやっていく場合、少子化で来館者数が減ることを前提に予算の組み方をしているのか。

(事務局)

少子化の影響はあるが、ここ数年の来館者数は年間10万人を超えていて、少し伸びている傾向がある。それに基づいて収支の計算もしている。

(委員)

館内に有料の遊具の設置とあるが、どんなものを考えているのか。

(事務局)

具体的なものはまだないが、有料のスペースを設けるのか、遊具を設けるのかこれから検討していく。一番考えているのは、現在は動物園には授乳室がなかったり、お子さんが来られた時に雨の日だったり、トイレを使いたい時に不便だったりするので、一体的に整備する理由の一つとして無料でここも入ることができて、(展示物なども)見ながら休んでいただき、その中で有料のコーナーを作って利用していただくようなことも考えている。これから検討していきたい。

(委員)

自分の子どもたちも利用したことがあるが、入場の時に料金を支払い、それで全部賄えた。高学年になるとその料金を握りしめて一人で楽しむことができた。それが、有料のコーナーとかができると親としてはどうなのかなと心配に思うこともある。

(事務局)

いろいろな考え方があるが、展示物や見るものがある所は一つの形として、授乳室や休憩室は無料とするといろいろな考え方がある。今の意見も参考にして考えていきたい。お子さんが気軽に来利用できる施設にはしていきたい。

(委員)

建物の耐震強度の問題は出てないのか。

(事務局)

耐震は問題ない。

(委員)

つい先日もここを利用させていただいた。幼稚園で城山地区を利用する場合、動物園と公園というセットが多い。園のバスで来るので中型ないし大型のバスが止まれるスペースは作っていただきたい。また、市内にたくさん公園があって魅力的な遊具もたくさん設置されているので整合性がとれたものを作っただけで、城山公園にはこんな遊具があるというものを入れていただくと、各発達段階に応じて利用

できる。うちの場合、年少はここに来る。年中、年長は違う公園に行く。例えば南長野の運動公園には遊具がたくさんあって遊べるスペースもたくさんある。雨が降った時も避難できる場所がある。篠ノ井中央公園も大型の遊具がたくさんあって広いスペースがあって、雨が降っても避難できる場所がある。恐竜公園も避難する場所があり、魅力的な公園が長野市にはいっぱいあるので、それぞれの「売り」を使えるような遊び+活動としてこんな公園がありますよというコンセプトが必要。幼稚園で科学センターを利用する場合は、うちは地附山に親子で行ってお昼を食べる時、天候がダメな時は科学センターに降りてきたり城山小学校を使わせてもらったりしている。単独でここを利用するのではなく、広域的に考えて魅力的なものにしていただきたい。数年前富山県だったと思うが同じような施設を見学した時、時代の最先端に行く機器がたくさん入っていた。一番感動的だったのが、目の前で3Dプリンターで模型を作る場面であった。今であれば授業はタブレットを使い、ここへ来ればクラス全員がいろんな機器を使って学べる一室があってもいいのではないか。

(事務局)

城山公園は駐車場が少ないということで、土日は科学センターの駐車場はいっぱいなのでプールの方を駐車場にすることも検討している。NHKの跡地も駐車場として検討している。城山動物園の所管課が一体的に整備とあるが、茶臼山動物公園、篠ノ井中央公園を管理しているのが公園緑地課で、動物園も含め市全体で総合的に考えるのは公園緑地課がいいのではないかと考えた。今までは、少年科学センターの管理は家庭・地域学びの課、動物園は公園緑地課、プールはスポーツ課と3つに分かれていたが、一つのところで集中して管理したほうがいいのではないかとということで、今回検討しているのは公園緑地課となっている。どのような形で続けていくか科学センターについても要望も入れながら使いやすいものにしていきたいと考えている。

(委員)

私も長野市出身で子どもの時から知っていた。今も二人の子どもと何度も来ていて利用させてもらっている。少年科学センターは結構人気があると思う。周りの人に聞いても、結構いいよねという話をよく聞くし自分もそう思う。一つは値段が安いということもあるし、触って見て楽しめるものがたくさんあり、物自体は古くなっているが素朴な体験ができる。昔の物だからといって悪いものではない。大人も楽しめる。少年科学センターは昔からあって、長野市民にも根付いている。個人的な希望であるが、科学の部分を引き継いでいければいいと思う。ただ遊具が置いてある遊び場にすると他にもたくさんある。科学の基礎知識に触れて楽しめる場所は他にはない。今あるものでも、子どもにとっては新鮮な体験である。今はパソコンのスイッチを押せばこうなるけれど、逆にその仕組みに触れにくくなっている。実際どういう仕組みでどうなっているのかを理解しにくい中で、基本的な今ある物はかえって貴重であり大事だと感じる。あと、来場者数のことで、元々ターゲットとしていた小中学生に比べて幼児が増えているということについては、平日は小中学生は学校に行くけれど、小さい子どもを連れのお母さんなどが遊びに連れて行く所がない時など、気軽に利用してもらえらるからこそ比率が高いのではないか。土日は駐車場がないので来にくい面もあるが、小中学生が兄弟で家族そろって来られるといういい面もある。全体的な入館者は減っていないので人気の表れだと思う。少年科学という面で遊べる所は引き継いでもらいたい。

(事務局)

7ページの仮称「ながのこども館」の写真があるが、このとおりになるわけではない。今、委員さんが言われたように、やはりいいものは科学として残していきたい。パソコンも普及しているので古い機械でどう

のこうのというよりも、科学の基礎、原理原則を学べるものが科学センターにもあるので、良いものは残しながらという形にして、あともう一つは親と子どもがここに来て交流できるようなスペース、今も若干あるが、冒険広場という形で、ああいうものを拡充していきたい。スペース的にも無駄というかもったいない部分もあるので、そこもリニューアルしながら有効に活用したい。いずれにしてもいい所は残しながら改修していきたい。

(委員)

今、事務局から基礎基本は残していきたいという心強い言葉を聞いて、単純に科学センターを無くしてこども館にするのではないということを感じたのでとてもありがたい。別の委員さんもおっしゃっていたが、私が10数年前に学びの課の前身の生涯学習課長をしていたその時から老朽化や維持管理については課題となっていた。それでも、こうして資料を見させていただくと、指定管理者の皆さんも結構頑張っていて持続させていると感じた。10万人という数字も人口が30数年前よりも、0歳から14歳までの人口が60数パーセントまで落ちている中で、ピーク時の12万人から、今でも10万人あるわけだから、それなりにやっているというも踏まえて考えた時に、少年科学センターというには本来の新しいニーズに適応した新しいものを取り入れてリニューアルしたり、新たにプラスしていくという面では若干なされていなかったのかと思う。そうした意味では、基礎基本を学ぶ場は残しつつ、子どものための動物園とも一体感を持ちつつやるのはとてもいい方向だと思う。今、市の方で公共施設の個別の整備計画を出されているが、その中で、この科学センター継続という方向で城山の整備方針に沿って集約化複合化について検討するとなっていることもあり、今若干前倒しになってこうして検討されているのだと思うと、それもOKだと思った。一つ要望としては、二次検討の段階で最新科学とそれに関連する基礎的な科学機器を展示し、遊びの中に科学する芽を養い、潜在的興味を喚起することができる施設で周辺市町村に類似する施設が無く、広域的に必要性の高い施設だとされているのだから、これからも充実して継続していくという言い方をされているように見えた。ついこの間も市の施設の方向性について素案について出された中でも感じたが、丁寧な説明が必要だと思ったので、そのへんはきっちりとやっていただきたい。

(委員)

今、多くの方がおっしゃられた通りだと思う。賛成という立場で2、3点述べたい。ただ、仮称「ながのこども館」というのはイメージがわからない。今ある少年科学センターの色を強くして行ってほしいと思う。理科の教員をやっていたので若干ここに関わったことがある。市の施設だったから、退職された先輩の先生方がここに関わったりしていた。今は指定管理になっているが昔とそんな色なくよくやっていただいていると思う。1点は基礎基本、原理原則的な部分は大切にしていってほしいということ。私も孫を連れてここによく来るが、雨が降った日などはどこに遊びに行くかという少年科学センターという名前がよく出てくる。雨でないときには昔の野球場(現在の公園)があるので遊具は少ないけれどそこで遊んでここに来て、そして動物園へ行ったり、動物園は飽きてしまってあまり見なくてもいいのですが…。私自身もここに来て「あ、なるほどそうなんだ」と、目を見開かされることがある。子どもたちにあまり原理原則とか、実験とか体験もいいことなのだが、そうすると幼稚園とか小学校2年生くらいの子どもは見に行かないだろうなど思う。遊ぶということを通して学ぶことが大事と考えている。それから保護者の方がたくさん来るので交流のスペース、休むスペースを大切にしてほしい。バッテリーの遊具は比較的よくあるのでこういうものはあまり賛成できない。いけないという訳ではないが…。2点目はお金の方で、入場料が安いなど思う。そこらに行くとバッテリーカーのようなものをやると、「はい100円」となるが、若干安い入場料で何

やってもいいよという方向は大切だと思う。よく私は来るので回数券で、10回に1回はというのも金銭面ではありうと思う。一層いいものになるようご検討いただきたい。

(事務局)

また担当課とあり方について参考にさせていただいて検討していきたい。

(委員)

回数券もすごくいいアイデアだと思う。料金を見ると60円とか払いやすい料金なのか疑問で、中途半端な金額だと思う。払う側としたら260円よりは300円とか200円の方が割り切れて払いやすいのではないかと。公共の施設は消費税とかがあって中途半端な払にくい設定になっている。もともと公共の物なので消費税はいらないのではないかと。市民目線の設定でお願いしたい。物理とか滑車とかの体験は他ではできない。今の世の中だからこ他では体験できないもので、それを使った何かができればいいと思う。今と構想を全く変えるのだとしたら、遊び道具を使いながらキッズニアみたいな職業体験的なものとか面白いと思う。

(事務局)

料金と消費税の関係については設定するのは担当課だのご意見を伝えていきたい。また、内容についても検討させていきたいと思う。

(委員)

駐車場についてはその通りで、例えば市民プールの所に何台置けるのか。

(事務局)

普通車だと約180台止められる見込み。あと、少し離れるがNHKの跡地はかなり広いので、さらに止められると思う。これから整備をするところである。

(委員)

管理運営は一体的にやるのはいいと思う。展示物については館の皆さんの創意工夫で作られてきて本当に良かったと思う。人なり(人のおかげ)ということについても一体的な管理になってもこの運営がまるまるでなくても担保できる体制を考えているのか。

(事務局)

指定管理の話になるが、5年間の指定管理期間が来年度で終わりになる。次の管理をどうするかについては担当課とも話をしていく。ここの運営が円滑にいくことが一番と思っているので私たちの方でもそういう要望をして体制づくりをしていきたい。

(委員)

指定管理を受けてはいたが、更新時期に公共機関から5%削減しろとか、そういうディスカウント要求があるが、今かつかつでやっていて黒字があるからいいじゃないかと言われるのが非常に困っているのではないかと。ディスカウント、ディスカウントという姿勢でいると指定の受け手がいなくなってしまう。役所のほうもそこをよく考えて指定管理を受けた側が運営しやすく利益が出ることを考えてほしい。

(会長)

全体の話をもとめると、一方では公園の全体計画があり、歳入において親子の人数が増えてきている中で、小さな子どもも安心して楽しめる場所ができるということが計画の案の中に書かれていてよろしいのですけれども、財政面の問題とか最新のテクノロジーの変化が早いので科学館という名前がいいのかということもあった。私も以前来たことがあるが思っていたよりもパターンが増えていて、奥が深いなと思っ

たがそれが今活用できているのか、遊びだけで終わってしまったら表面的な楽しさだけで終わってしまう。年齢に応じて楽しめるし、どうやって楽しむのか活用の仕方が大事。ただ、あまり活用できるような状態にはないが。小学校が今日来ていたが、ああやって来てもらえるといういろいろ学べるのかと思う。地下の階は小さな子どもも楽しめる。好奇心旺盛な子どもだったら基本的なことから未来のことまでいろいろ学べる。お金をかけなくても学べるようにアイデアを集めるとか、アドバイザーを置いて意見を聞くとか、年間利用できるようなパスポートがあっても繰り返すことで新しい発見もあるかと思う。学校の教員に聞くとかなり発展性があると思う。科学ということにこだわらず未来ということでSDGsとか地球環境の問題とか、総合学習的なことでテクノロジーを含めてみんなで地球の未来を考えていけるようなコンセプトにしていけたらと思う。新しくお金をかけなくても刺激を受けて未来に向けて意欲が高まるような子どもたちがここに来て伸びていけるように、参加型の施設にしていきたい。こども館と科学センターの間くらいで、両方取り入れて小さな子どもを持つ親が安心して未来を見つめながら遊ばせることができるもので、今あるものを生かしながら新しいニーズも入りやすくして子育て支援もできるような、市民の場所になればいいのではないかというのが委員の意見と思うので、担当課で考えてほしい。お忙しい中、貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

以上